

(27) つめ切り

全体としてつめ切りは、初回は「自立」が6,486名(40.1%)、「一部介助」が3,155名(19.5%)、「全介助」が6,515名(40.3%)であった。2回目は、「自立」が5,544名(34.3%)、「一部介助」が3,027名(18.7%)、「全介助」が7,585名(46.9%)であった。3回目は、「自立」が4,628名(28.6%)、「一部介助」が2,889名(17.9%)、「全介助」が8,639名(53.5%)であった。4回目は、「自立」が3,859名(23.9%)、「一部介助」が2,664名(16.5%)、「全介助」が9,633名(59.6%)であった。

これらの結果から、つめ切りの何らかの介助が必要な要介護高齢者の割合は、初回から4回目と認定回数が増加するにしたがって、59.9%、65.7%、71.4%、76.1%と漸次、増加していた。

要介護度別には、自立割合の変化をみると、非該当から要介護2までは、自立割合は、認定回数が増加するにしたがって減少していた。要介護3から5までは、2回目のほうが初回よりも自立割合は増加していた。要介護3、3回目、4回目は、自立割合が減少し、要介護4は、3回目までは自立割合は増加していた。要介護5は、初回から4回目まで、認定回数が増加するにしたがって自立割合は増加していた。要介護5の初回から2回への増加割合をみると、0%から3.0%と示されていた。要介護5は、3回目3.3%、4回目5.1%と増加していた。この4回目は、要介護4は3.4%で、要介護5のほうが自立割合は高かった。

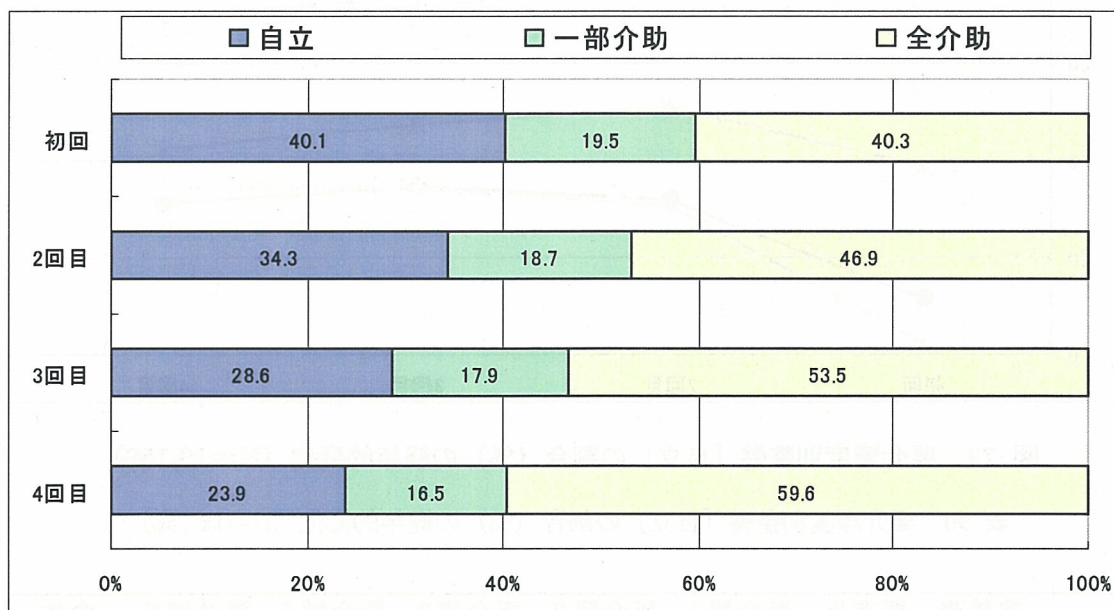


図 74 つめ切り (N=16,156)

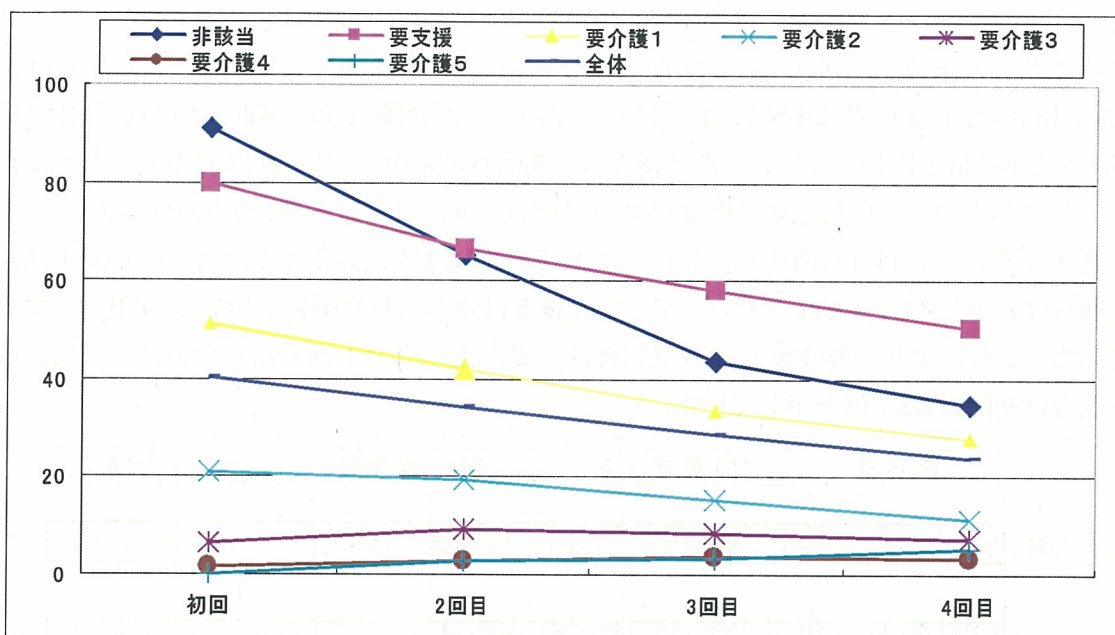


図 75 要介護度別つめ切り「自立」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

表 91 要介護度別つめ切り「自立」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	91	79.7	51.0	20.9	6.5	1.6	0.0	40.1
2回目	65	66.7	41.8	19.3	9.3	2.6	3.0	34.3
3回目	43.5	58.3	33.5	15.1	8.7	3.6	3.3	28.6
4回目	34.8	50.3	27.7	11.2	7.1	3.4	5.1	23.9

(28) 上衣の着脱

全体として上衣の着脱は、初回は「自立」が 9,689 名 (60.0%)、「見守り等」が 1,952 名 (12.1%)、「一部介助」が 3,182 名 (19.7%)、「全介助」が 1,333 名 (8.3%) であった。2回目は、「自立」が 9,473 名 (58.6%)、「見守り等」が 2,151 名 (13.3%)、「一部介助」が 3,381 名 (20.9%)、「全介助」が 1,151 名 (7.1%) であった。3回目は、「自立」が 8,722 名 (54.0%)、「見守り等」が 2,068 名 (12.8%)、「一部介助」が 3,820 名 (23.6%)、「全介助」が 1,546 名 (9.6%) であった。4回目は、「自立」が 7,922 名 (49.0%)、「見守り等」が 2,041 名 (12.6%)、「一部介助」が 3,951 名 (24.5%)、「全介助」が 2,242 名 (13.9%) であった。

これらの結果から、上衣の着脱に何らかの介助が必要な要介護高齢者の割合は、初回 40.0%、2回目 41.4%、3回目 46.0%、4回目 51.0%と漸次、増加していた。ただし、全介助の割合は、初回の 8.3%から、2回目 7.1%と減少していた。

要介護度別には、非該当は初回から3回目までは減少するが、4回目に増加していた。

要支援から要介護 1 は、認定回数が増加するにしたがって、自立割合が減少していた。要介護 2 から 5 までは、初回から 2 回目は、すべて自立割合が増加していた。要介護 3 は、初回 13.3%から 2 回目 26.8%と 2 倍になっていた。要介護 4 は、初回 2.1%から 2 回目 13.6%と 6.5 倍と増加していた。要介護 5 は、初回 0.3%から、2 回目は 11.9%となっており、39.7 倍となっていた。要介護 2 と 3 は 3 回目、4 回目と自立割合が減少していた。要介護 4 と 5 は、3 回目も増加し、それぞれ 15.5%、13.1%と示されていた。要介護 4 は、4 回目は減少し 14.7%となっていたが、要介護 5 はさらに自立割合が増加し 15.8%となっていた。これにより、要介護 5 の自立割合は、要介護 4 よりも高くなっていた。また、自立割合は初回の 52.7 倍を示していた。

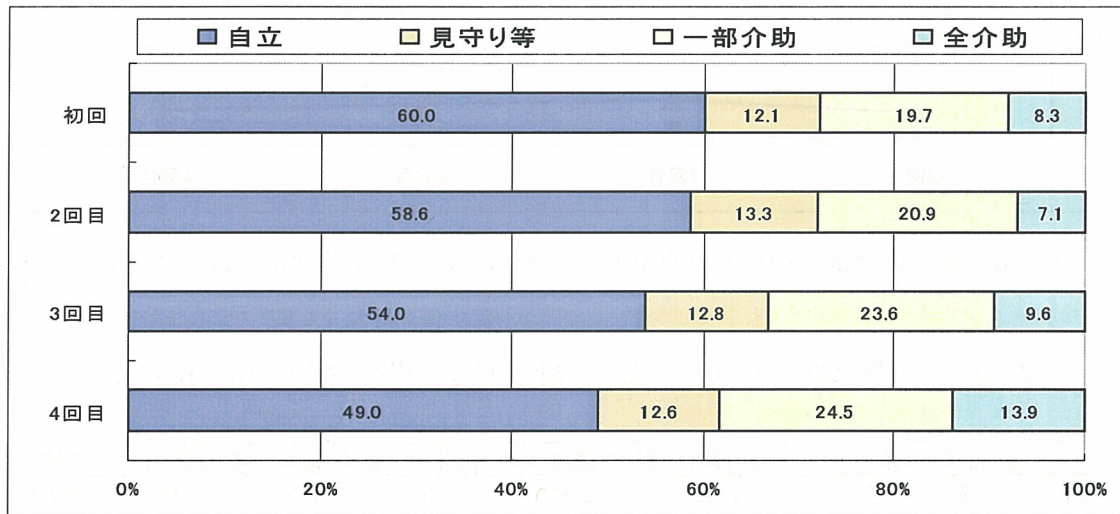


図 76 上衣の着脱 (N=16,156)

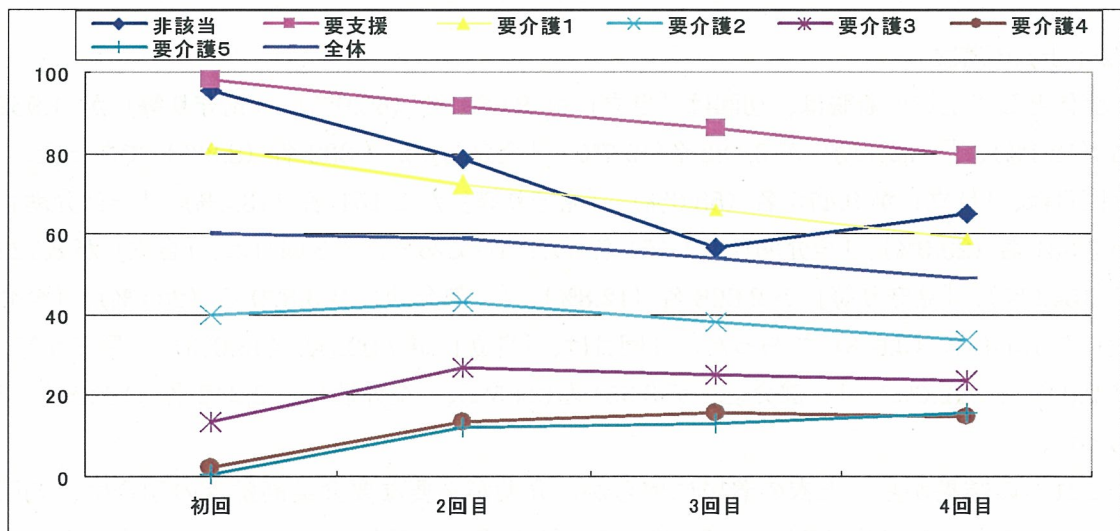


図 77 要介護度別上衣の着脱「自立」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

表 92 要介護度別上衣の着脱「自立」の割合（％）の経年的変化（N=16,156）

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	96	98.2	81.4	40.1	13.3	2.1	0.3	60.0
2回目	78	91.5	72.2	42.9	26.8	13.6	11.9	58.6
3回目	56.5	85.9	65.7	38.0	25.0	15.5	13.1	54.0
4回目	65.2	79.3	58.8	33.5	23.8	14.7	15.8	49.0

(29) ズボン等の着脱

全体としてズボン等の着脱は、初回は「自立」が 9276 名（57.4%）、「見守り等」が 1,872 名（11.6%）、「一部介助」が 3,214 名（19.9%）、「全介助」が 1,794 名（11.1%）であった。2 回目は、「自立」が 9,160 名（56.7%）、「見守り等」が 2,064 名（12.8%）、「一部介助」が 3,315 名（20.5%）、「全介助」が 1,617 名（10.0%）であった。3 回目は、「自立」が 8,348 名（51.7%）、「見守り等」が 2,016 名（12.5%）、「一部介助」が 3,616 名（22.4%）、「全介助」が 2,176 名（13.5%）であった。4 回目は、「自立」が 7,579 名（46.9%）、「見守り等」が 1,925 名（11.9%）、「一部介助」が 3,744 名（23.2%）、「全介助」が 2,908 名（18.0%）であった。

これらの結果、ズボン等の着脱に何らかの介助が必要な要介護高齢者の割合は、初回 42.6%、2 回目 43.3%、3 回目 48.3%、4 回目 53.1%と増加する傾向が見られた。しかし、全介助の割合は、初回の 11.1%から 2 回目 10.0%と減少していた。

要介護度別には、非該当は初回 96.0%と 3 回目 60.9%と減少していたが、4 回目に 65.2%と増加していた。要支援と要介護 1 は、認定回数が増加するにしたがって、自立割合は減少していた。要介護 2 から 5 までは、初回から 2 回目までに、自立割合は、すべて増加していた。要介護 2 は、34.1%から 38.9%へ、要介護 3 は、7.3%から 23.1%へ、要介護 4 は、0.9%から 11.4%と 12.7 倍となっていた。要介護 5 は、0 から 9.0%と増加していた。2 回目から 3 回目においては、要介護 2 と 3 減少していたが、要介護 4 と 5 は、増加を続けていた。4 回目は、要介護 2 から 4 まで、すべて減少していたが、要介護 5 だけは、さらに自立割合が増加していた。これにより、要介護 5 の自立割合は 12.8%、要介護 4 の自立割合は 12.5%と、要介護 5 のほうが自立割合が高くなっていた。

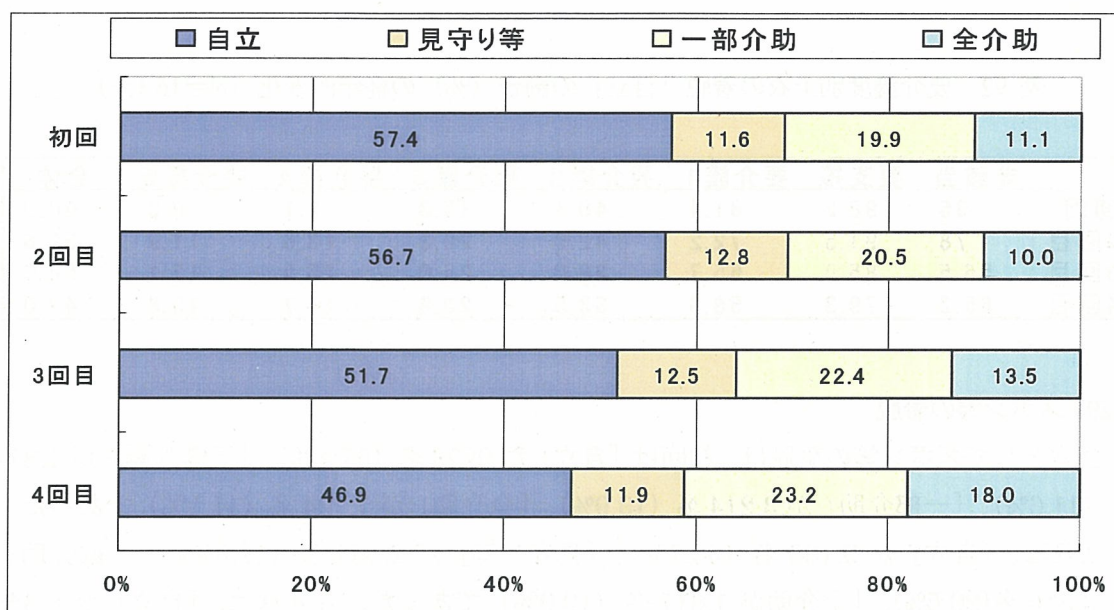


図 78 ズボン等の着脱 (N=16,156)

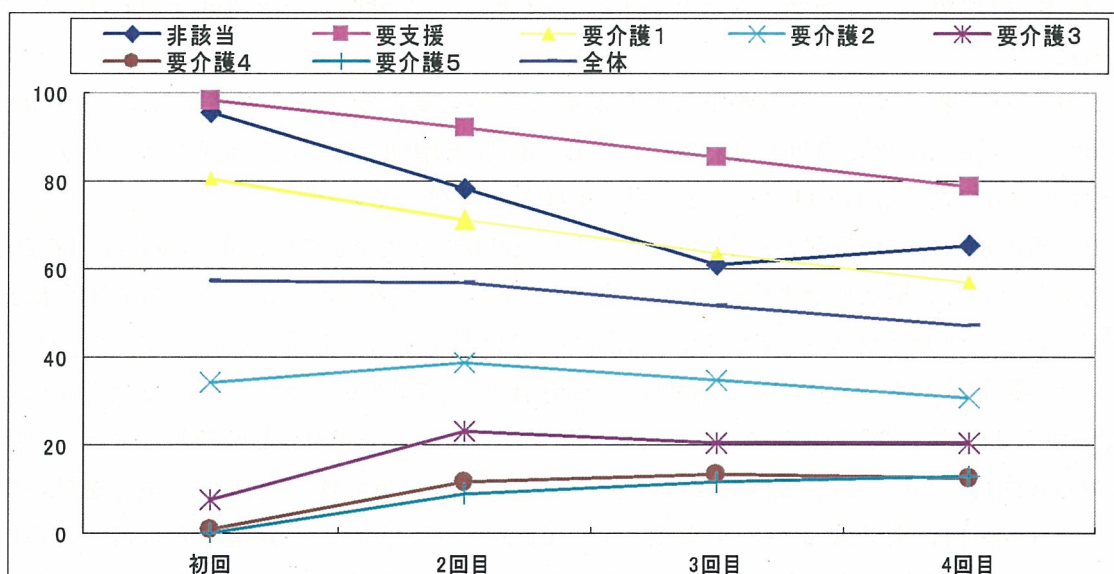


図 79 要介護度別ズボン等の着脱「自立」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

表 93 要介護度別ズボン等の着脱「自立」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	96	98.2	80.4	34.1	7.3	0.9	0.0	57.4
2回目	78	91.8	71.0	38.9	23.1	11.4	9.0	56.7
3回目	60.9	85.2	63.6	34.9	20.6	13.3	11.6	51.7
4回目	65.2	78.5	57.0	30.6	20.4	12.5	12.8	46.9

(30) 薬の内服

全体として薬の内服は、初回は「自立」が6,655名(41.2%)、「一部介助」が7,989名(49.4%)、「全介助」が1,512名(9.4%)であった。2回目は、「自立」が6,361名(39.4%)、「一部介助」が8,217名(50.9%)、「全介助」が1,578名(9.8%)であった。3回目は、「自立」が5,789名(35.8%)、「一部介助」が8,422名(52.1%)、「全介助」が1,945名(12.0%)であった。4回目は、「自立」が5,216名(32.2%)、「一部介助」が8,320名(51.5%)、「全介助」が2,620名(16.2%)であった。

これらの結果から、薬の内服に何らかの介助が必要な要介護高齢者の割合は、初回58.8%、2回目60.6%、3回目64.2%、4回目67.7%と認定回数が増加するにしたがって、介助を必要とする人の割合が増加していた。

要介護度別には、非該当から要介護1までは、初回から4回目までのすべての回において自立割合が減少していた。要介護2から5までは、初回から2回目まではすべて増加していた。要介護2は、22.4%から23.4%へ、要介護3は、8.5%から13.6%へ、要介護4は、2.2%から5.8%へ、さらに要介護5は、0.6%から4.8%へと8倍となっていた。2回目から3回目については、要介護2と3においては自立割合は、減少していたが、要介護4と5は、増加しており、要介護4は5.8%から6.8%へ、要介護5は4.8%から6.3%へと増加していた。3回目から4回目の要介護4が6.8%と変化がなかった以外、すべての自立割合は減少していた。

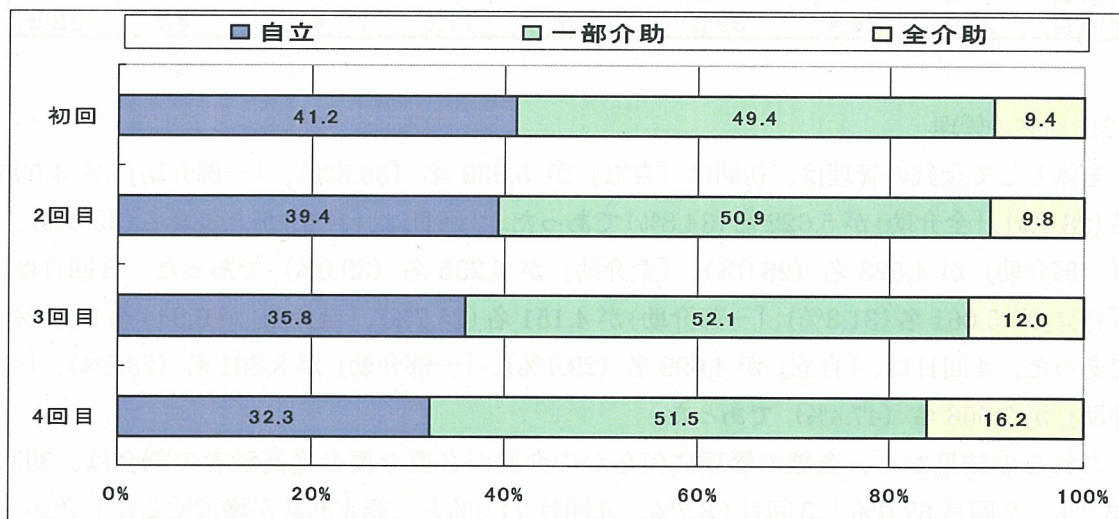


図 80 薬の内服 (N=16,156)

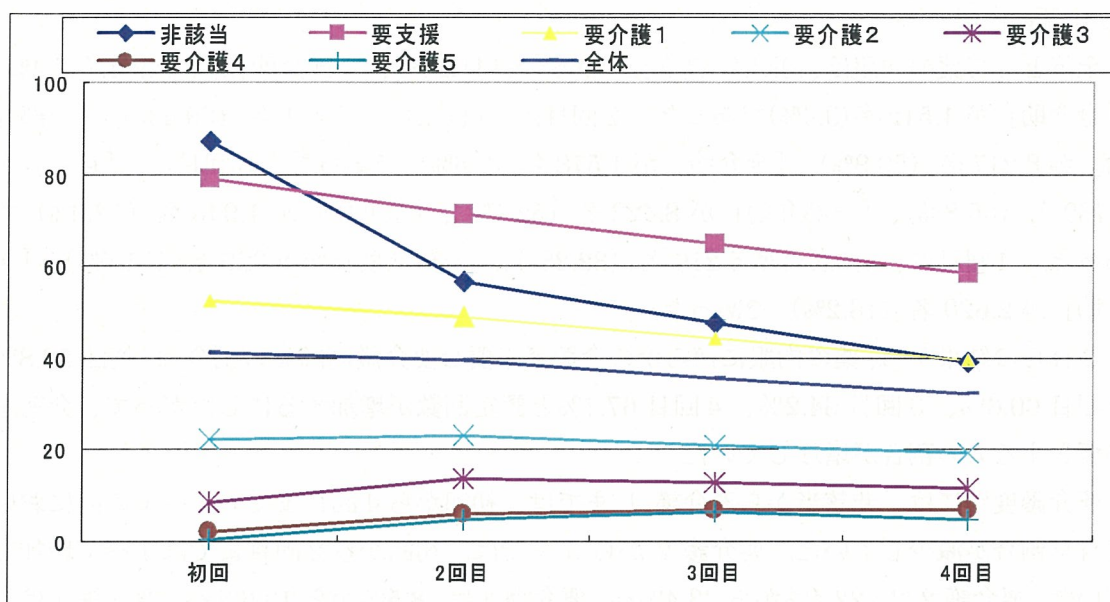


図 81 要介護度別薬の内服「自立」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

表 94 要介護度別薬の内服「自立」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	87	79.1	52.5	22.4	8.5	2.2	0.6	41.2
2回目	57	71.1	48.8	23.4	13.6	5.8	4.8	39.4
3回目	47.8	64.7	44.0	21.0	12.8	6.8	6.3	35.8
4回目	39.1	58.4	39.3	19.1	11.8	6.8	4.8	32.3

(31) 金銭の管理

全体として金銭の管理は、初回は「自立」が 5,939 名 (36.8%)、「一部介助」が 4,595 名 (28.4%)、「全介助」が 5,622 名 (34.8%) であった。2 回目は、「自立」が 5,333 名 (33.0%)、「一部介助」が 4,528 名 (28.0%)、「全介助」が 6,295 名 (39.0%) であった。3 回目は、「自立」が 5,061 名 (31.3%)、「一部介助」が 4,151 名 (25.7%)、「全介助」が 6,944 名 (43.0%) であった。4 回目は、「自立」が 4,699 名 (29.1%)、「一部介助」が 3,801 名 (23.5%)、「全介助」が 7,656 名 (47.4%) であった。

これらの結果から、金銭の管理に何らかの介助が必要な要介護高齢者の割合は、初回 63.2%、2 回目 67.0%、3 回目 68.7%、4 回目 71.9% と、認定回数が増加するにしたがって、介助が必要な割合も増加していた。

要介護度別には、非該当から要介護 2 までは初回から 4 回目まですべての回において、自立割合が減少していた。要介護 3 から 5 までは、初回から 2 回目まではすべて増加していた。2 回目から 3 回目は、要介護 3 では、自立割合が増加するが、要介護 4 では変化がなく、要介護 5 では、減少していた。3 回目から 4 回目には、要介護 3 の自立割合は減少するが、要介護 4 では増加し、要介護 5 では変化がなかった。

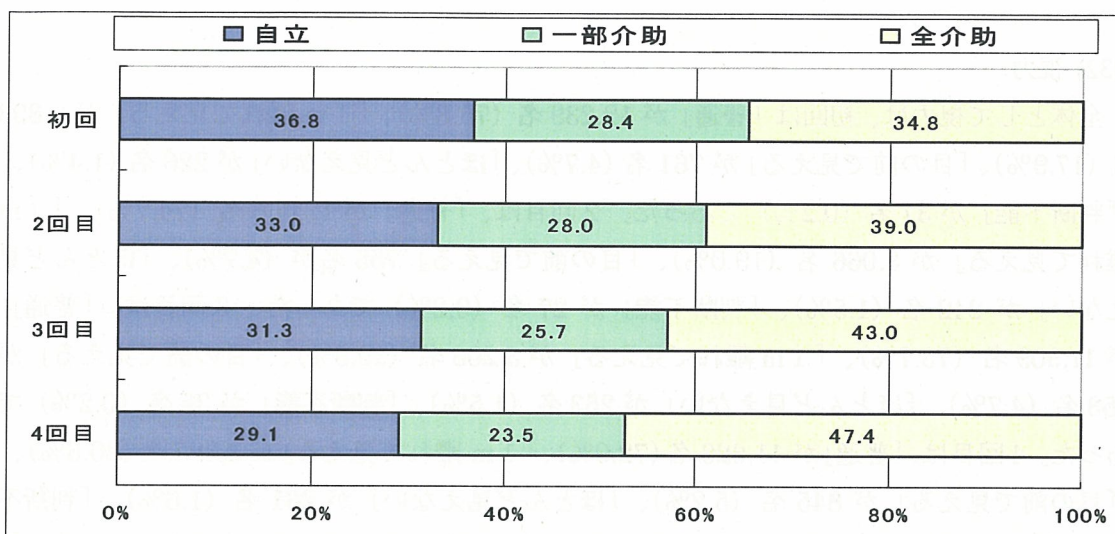


図 82 金銭の管理 (N=16,156)

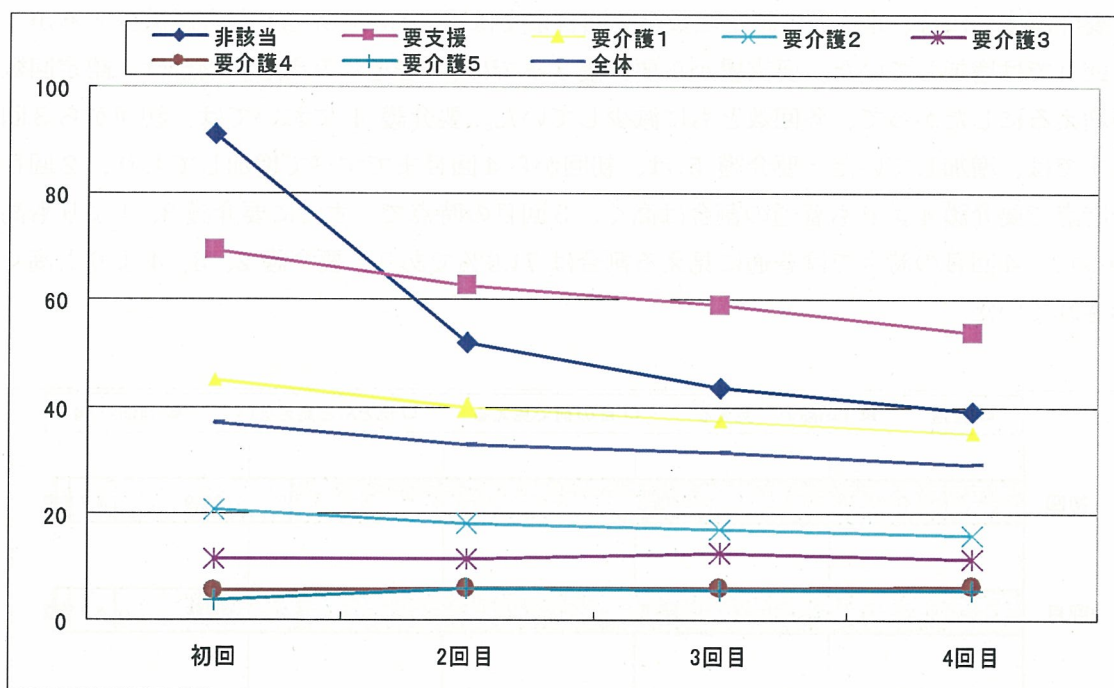


図 83 要介護度別金銭の管理「自立」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

表 95 要介護度別金銭の管理「自立」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	91	69.5	45.0	20.6	11.3	5.5	3.6	36.8
2回目	52	62.9	39.8	17.9	11.5	5.8	6.0	33.0
3回目	43.5	59.0	37.4	17.1	12.5	5.8	5.7	31.3
4回目	39.1	53.8	35.2	15.8	11.5	6.4	5.7	29.1

(32) 視力

全体として視力は、初回は「普通」が 12,239 名 (75.8%)、「1 m 離れて見える」が 2,893 名 (17.9%)、「目の前で見える」が 761 名 (4.7%)、「ほとんど見えない」が 226 名 (1.4%)、「判断不能」が 37 名 (0.2%) であった。2 回目は、「普通」が 12,066 名 (74.7%)、「1 m 離れて見える」が 3,066 名 (19.0%)、「目の前で見える」755 名が (4.7%)、「ほとんど見えない」が 242 名 (1.5%)、「判断不能」が 27 名 (0.2%) であった。3 回目は、「普通」が 11,909 名 (73.7%)、「1 m 離れて見える」が 3,206 名 (19.8%)、「目の前で見える」が 753 名 (4.7%)、「ほとんど見えない」が 253 名 (1.5%)、「判断不能」が 35 名 (0.2%) であった。4 回目は、「普通」が 11,626 名 (72.0%)、「1 m 離れて見える」が 3,327 名 (20.6%)、「目の前で見える」が 845 名 (5.2%)、「ほとんど見えない」が 261 名 (1.6%)、「判断不能」が 97 名 (0.6%) であった。

これらの結果、視力の「普通」である要介護高齢者の割合は、初回 75.8%、2 回目 74.7%、3 回目 73.7%、4 回目 72.0%と減少していた。

要介護度別には、非該当は認定回数が 3 回目までは「普通にみえる」割合が減少するが、4 回目では増加していた。要支援から要介護 3 までは、「普通にみえる」割合は、認定回数が増えるにしたがって、各回数ともに減少していた。要介護 4 においては、初回から 3 回目までは、増加していた。要介護 5 は、初回から 4 回目まですべて増加しており、2 回目の時点で要介護 4 よりも普通の割合は高く、3 回目の時点で、すでに要介護 3、4 よりも高かった。4 回目の時点では普通にみえる割合は 71.6%であり、要介護 2、3、4 よりも高く示されていた。

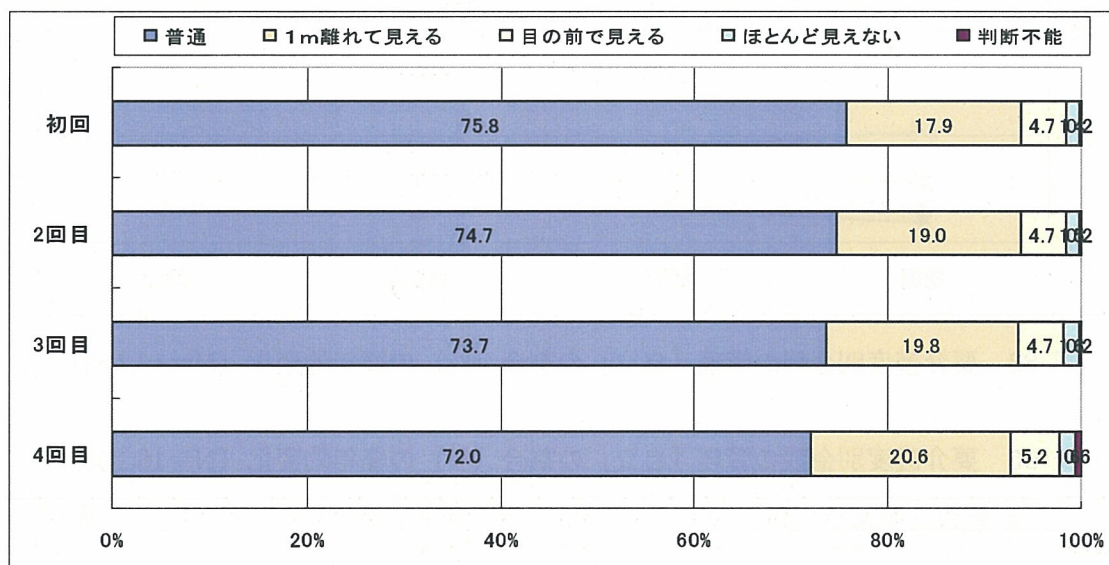


図 84 視力 (N=16,156)

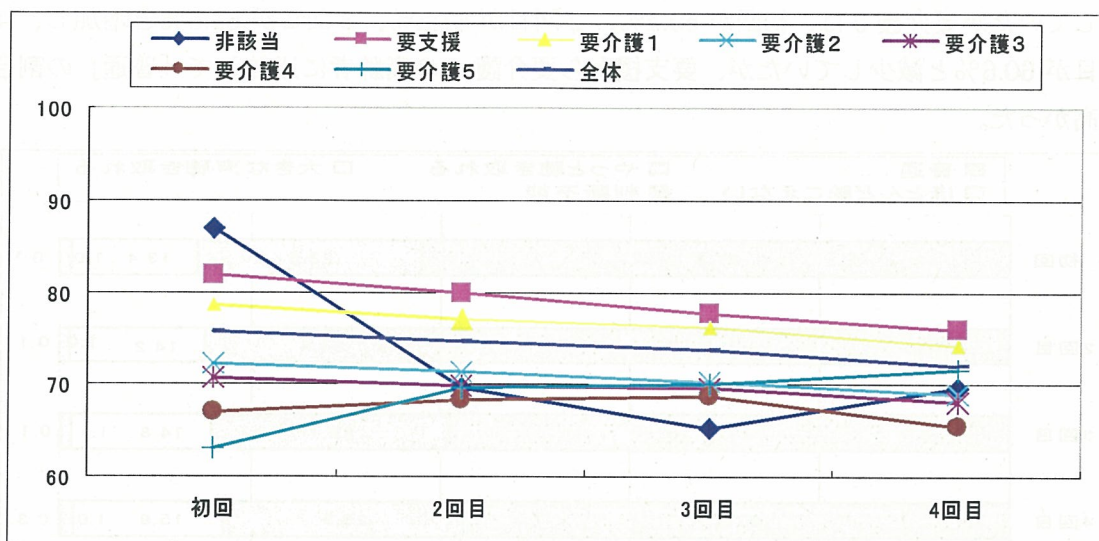


図 85 要介護度別視力「普通」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

表 96 要介護度別視力「普通」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	87	81.8	78.6	72.3	70.7	67.1	63.0	75.8
2回目	70	80.0	77.1	71.3	69.8	68.4	69.6	74.7
3回目	65.2	77.8	76.1	70.3	69.7	68.8	70.1	73.7
4回目	69.6	76.0	74.2	69.0	68.0	65.5	71.6	72.0

(33) 聴力

聴力は、初回は「普通」が9,999名(61.9%)、「やっと聞き取れる」が3,804名(23.5%)、「大きな声聞き取れる」が2,169名(13.4%)、「ほとんど聴こえない」が168名(1.0%)、「判断不能」が16名(0.1%)であった。2回目は、「普通」が9,732名(60.2%)、「やっと聞き取れる」が3,948名(24.4%)、「大きな声聞き取れる」が2,302名(14.8%)、「ほとんど聴こえない」が160名(1.0%)、「判断不能」が14名(0.1%)であった。3回目は、「普通」が9,512名(58.9%)、「やっと聞き取れる」4,058名(25.4%)、「大きな声聞き取れる」が2,396名(14.2%)、「ほとんど聴こえない」が173名(1.1%)、「判断不能」が17名(0.1%)であった。4回目は、「普通」が9,275名(57.4%)、「やっと聞き取れる」4,094名(25.3%)、「大きな声聞き取れる」が2,568名(15.9%)、「ほとんど聴こえない」が169名(1.0%)、「判断不能」が50名(0.3%)であった。

全体として、聴力については、「普通」である要介護高齢者の割合は、初回は61.9%、2回目は、60.2%、3回目58.9%、4回目57.4%と減少していた。

要介護度別には、非該当においては、3回目まで「普通」に聞こえるという高齢者は減少するが、4回目に増加していた。要支援から要介護4までは、初回から4回目まで、減

少していたが要介護5は、初回が59.4%、2回目が61.2%、3回目が61.5%と増加し、4回目が60.6%と減少していたが、要支援から要介護4の高齢者に比較して「普通」の割合は高かった。

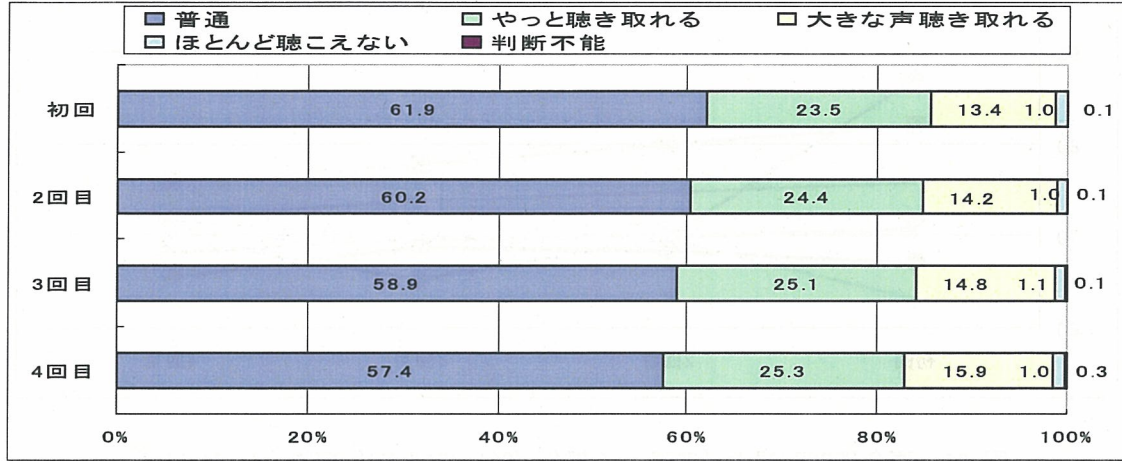


図 86 聴力 (N=16,156)

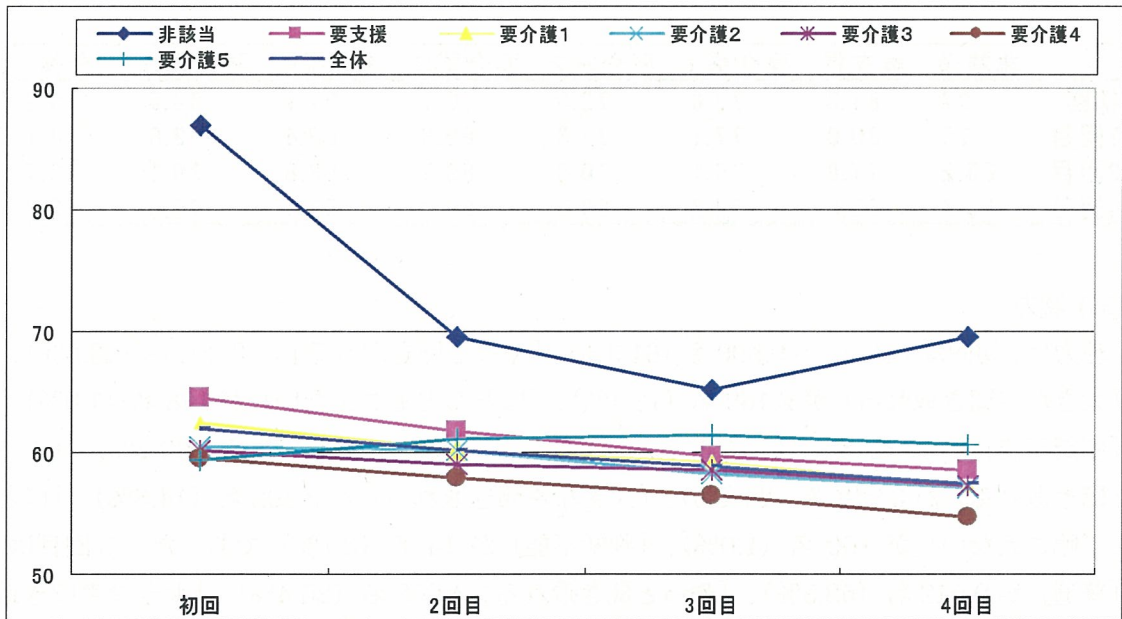


図 87 要介護度別聴力「普通」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

表 97 要介護度別聴力「普通」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	87	64.5	62.4	60.5	60.2	59.5	59.4	61.9
2回目	70	61.7	60.2	60.2	59.0	57.9	61.2	60.2
3回目	65.2	59.7	59.2	58.3	58.5	56.4	61.5	58.9
4回目	69.6	58.5	57.3	57.1	57.3	54.6	60.6	57.4

(34) 意思の伝達

意思の伝達については、初回は「伝達できる」が 13,502 名 (83.6%)、「ときどき伝達できる」が 2,183 名 (13.5%)、「ほとんど伝達できない」が 379 名 (2.3%)、「できない」が 92 名 (0.6%) であった。2 回目は、「伝達できる」が 13,295 名 (82.3%)、「ときどき伝達できる」が 2,318 名 (14.3%)、「ほとんど伝達できない」が 453 名 (2.8%)、「できない」が 90 名 (0.6%) であった。3 回目は、「伝達できる」が 12,966 名 (80.3%)、「ときどき伝達できる」が 2,500 名 (15.5%)、「ほとんど伝達できない」が 578 名 (3.6%)、「できない」が 112 名 (0.7%) であった。4 回目は、「伝達できる」が 12,377 名 (76.6%)、「ときどき伝達できる」が 2,836 名 (17.6%)、「ほとんど伝達できない」が 753 名 (4.7%)、「できない」が 190 名 (1.2%) であった。

全体としては、意思の伝達が完全にできない要介護高齢者の割合は、初回から 4 回目にかけて増加する傾向が見られた。

要介護度別には、非該当から要介護 2 までは、初回よりも 2 回目のほうが伝達できる割合は減少していたが、要介護 3 から 5 までは増加していた。2 回目から 3 回目については、要支援から要介護 4 までは、すべて減少していた。非該当と要介護 5 だけが、伝達できる割合は増加していた。3 回目から 4 回目には、すべての要介護度で伝達できる割合は減少していた。要介護 5 は 4 回目において、要介護 3、4 よりも伝達できる割合は高くなっており、視力と同様の結果となっていた。

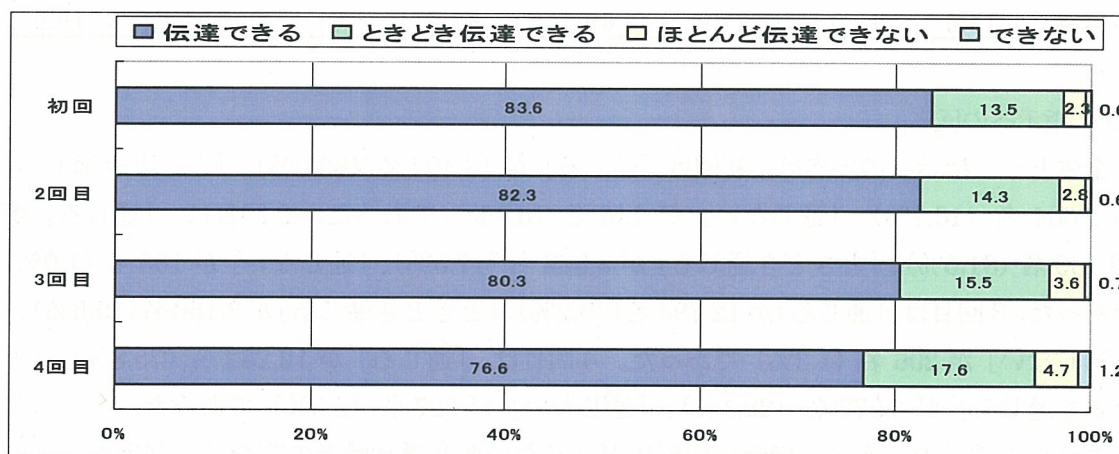


図 88 意思の伝達 (N=16,156)

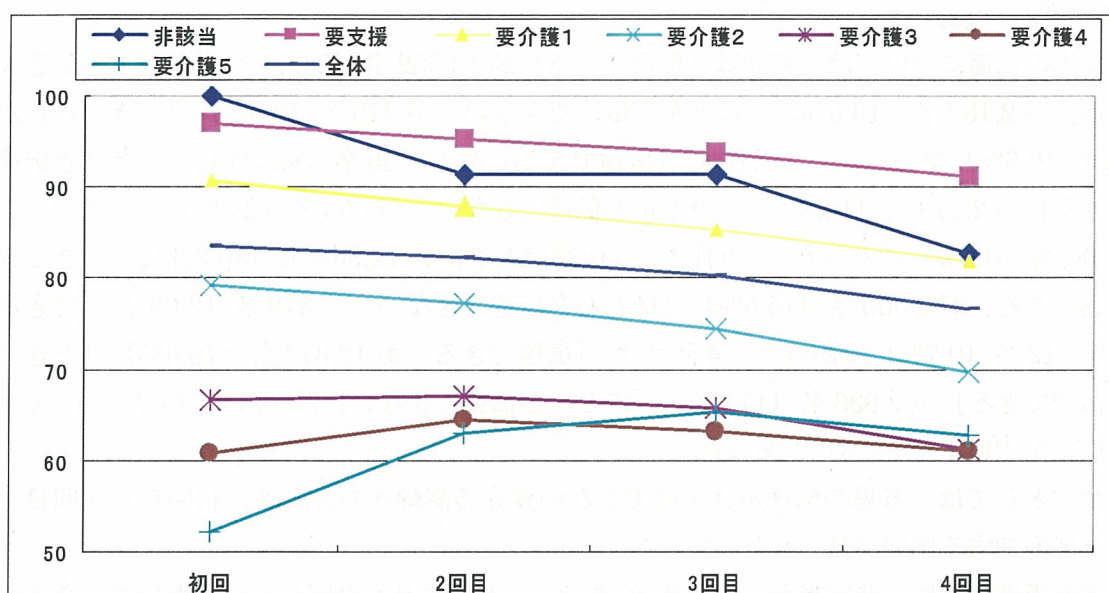


図 89 要介護度別意思の伝達「伝達できる」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

表 98 要介護度別意思の伝達「伝達できる」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	100	96.9	90.7	79.2	66.7	60.8	52.2	83.6
2回目	91	95.2	87.9	77.2	67.1	64.5	63.0	82.3
3回目	91.3	93.8	85.3	74.4	65.8	63.2	65.4	80.3
4回目	82.6	91.0	81.9	69.7	61.3	61.1	62.7	76.6

(35) 指示への反応

全体として指示への反応は、初回は「通じる」が13,407名(83.0%)、「ときどき通じる」が2,604名(16.1%)、「通じない」が145名(0.9%)であった。2回目は、「通じる」が13,169名(81.5%)、「ときどき通じる」が2,822名(17.5%)、「通じない」が165名(1.0%)であった。3回目は、「通じる」が12,794名(79.2%)、「ときどき通じる」が3,156名(19.5%)、「通じない」が206名(1.3%)であった。4回目は、「通じる」が12,252名(75.8%)、「ときどき通じる」が3,577名(22.1%)、「通じない」が327名(2.0%)であった。

これらの結果のように、指示への反応が通じない要介護高齢者の割合は、初回から4回目にかけて増加する傾向が見られた。

要介護度別には、非該当から要介護3までは、指示への反応は、認定回数が増えるにしたがって、通じる割合が減少していた。要介護4と5については、初回から3回目までは、増加していたが、4回目は減少していた。要介護5の4回目の自立割合は、要介護3、4よりも高くなっていた。

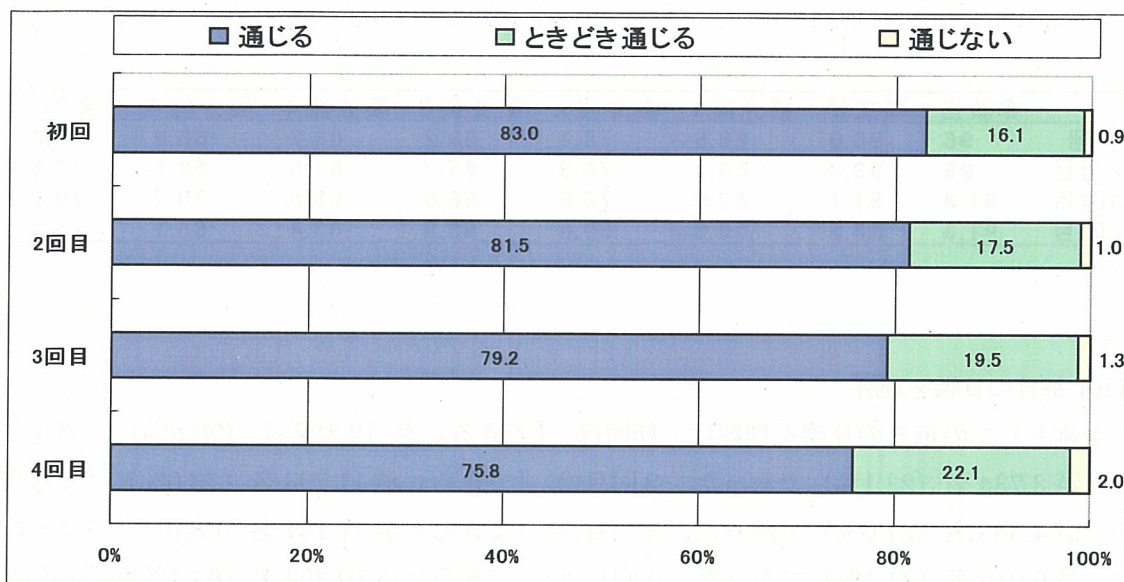


図 90 指示への反応 (N=16,156)

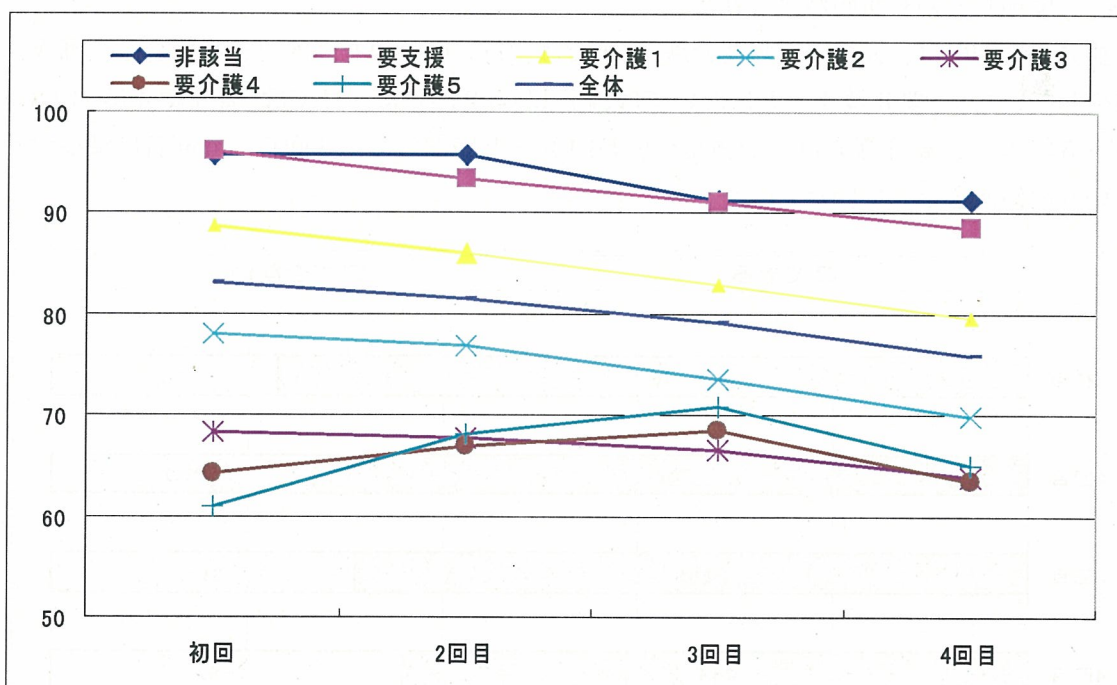


図 91 要介護度別指示への反応「通じる」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

表 99 要介護度別指示への反応「通じる」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	96	96.0	88.6	78.1	68.2	64.2	60.9	83.0
2回目	96	93.3	86.1	76.9	67.7	67.0	68.1	81.5
3回目	91.3	91.1	82.9	73.6	66.5	68.5	70.7	79.2
4回目	91.3	88.5	79.6	69.8	63.8	63.4	65.1	75.8

(36) 毎日の日課を理解

全体としての毎日の日課を理解は、初回は、「できる」が 12,422 名 (76.9%)、「できない」が 3,734 名 (23.1%) であった。2 回目は、「できる」が 11,793 名 (73.0%)、「できない」が 4,363 名 (27.0%) であった。3 回目は、「できる」が 11,137 名 (68.9%)、「できない」が 5,019 名 (31.1%) であった。4 回目は、「できる」が 10,354 名 (64.1%)、「できない」が 5,802 名 (35.9%) であった。

このように、毎日の日課を理解ができない要介護高齢者の割合は、初回から 4 回目にかけて、増加していく傾向が見られた。

要介護度別には、非該当から要介護 3 までは、毎日の日課を理解できる割合は、漸次、減少していたが、要介護 4 と 5 においては、初回から 2 回目にかけては、要介護 4 は、49.8% から 54.5% へ、要介護 5 は、41.5% から 56.1% へと増加して、3 回目、4 回目は減少するという傾向を示していた。

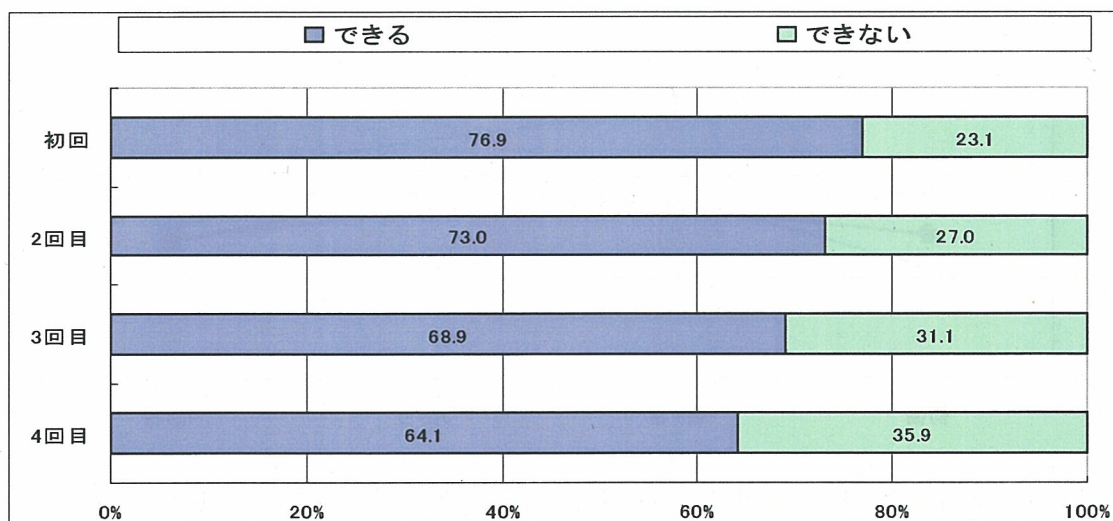


図 92 毎日の日課を理解 (N=16,156)

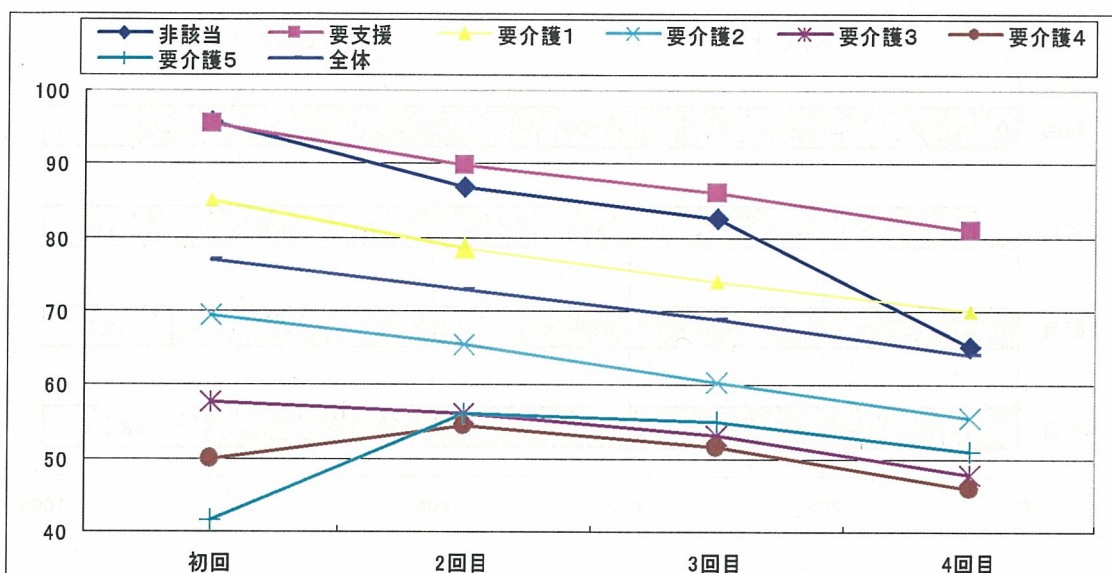


図 93 要介護度別毎日の日課を理解「できる」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

表 100 要介護度別毎日の日課を理解「できる」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	96	95.4	84.9	69.3	57.7	49.8	41.5	76.9
2回目	87	89.8	78.5	65.5	56.0	54.5	56.1	73.0
3回目	82.6	86.2	74.1	60.4	53.2	51.4	54.9	68.9
4回目	65.2	80.9	69.9	55.4	47.7	45.9	51.0	64.1

(37) 生年月日をいう

全体としては、「生年月日をいう」が初回は、「できる」が 14,574 名 (90.2%)、「できない」が 1,582 名 (9.8%) であった。2 回目は、「できる」が 14,385 名 (89.0%)、「できない」が 1,771 名 (11.0%) であった。3 回目は、「できる」が 14,027 名 (86.8%)、「できない」が 2,129 名 (13.2%) であった。4 回目は、「できる」が 13,466 名 (83.3%)、「できない」が 2,690 名 (16.7%) であった。

これらの結果からは、生年月日をいうことが「できない」要介護高齢者の割合は、初回から 4 回目にかけて、漸次、増加する傾向が見られた。

要介護度別には、生年月日をいうことが「できる」高齢者の割合は、要介護 3 と 5 を除くと、初回から 4 回目まで減少していた。要介護 3 と 5 においては、要介護 3 では、初回から 2 回目に 79.0% から 79.5% へと増加し、要介護 5 では、68.4% から 77.6% へと大きく増加していた。いずれの要介護度においても 3 回目、4 回目は減少していくが、要介護 5 の 4 回目においては、生年月日いうことが「できる」割合は、要介護 3、4 よりも高かった。

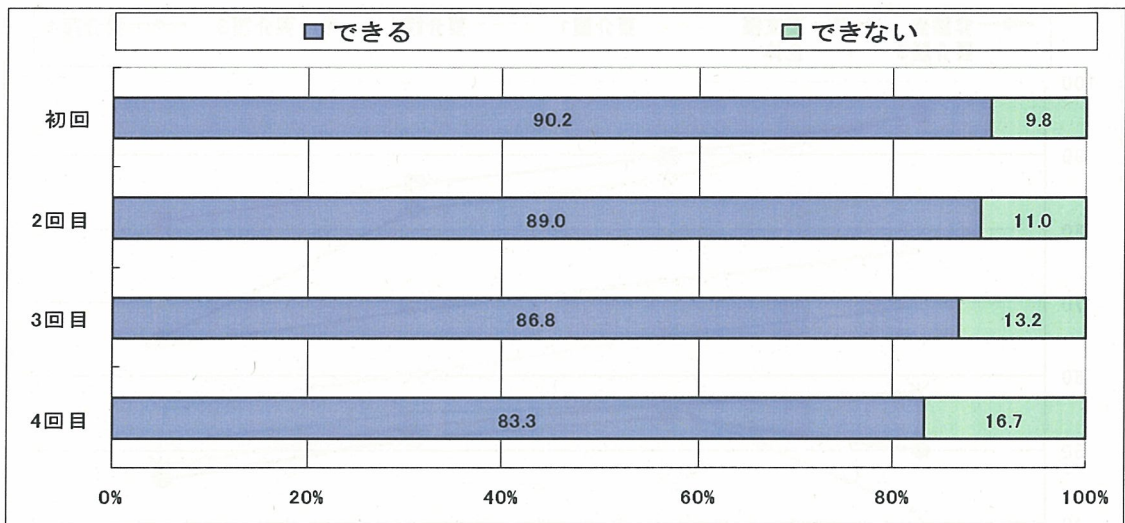


図 94 生年月日をいう (N=16,156)

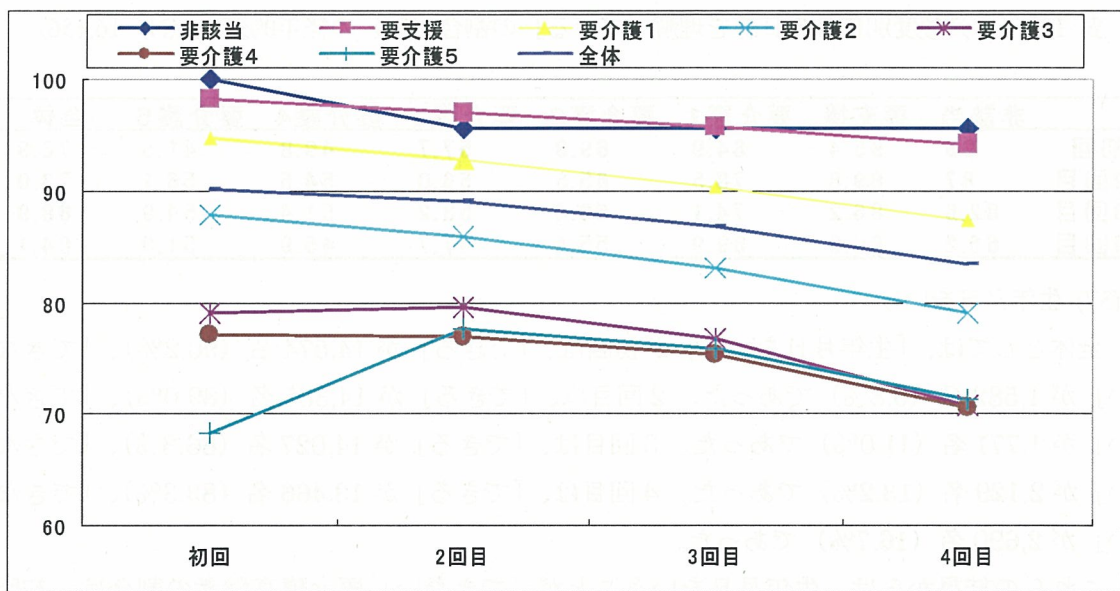


図 95 要介護度別「生年月日をいうことができる」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

表 101 要介護度別「生年月日をいうことができる」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	100	98.2	94.8	87.8	79.0	77.2	68.4	90.2
2回目	96	97.0	92.8	85.8	79.5	76.9	77.6	89.0
3回目	95.7	95.8	90.3	83.1	76.8	75.3	75.8	86.8
4回目	95.7	94.3	87.4	79.0	70.8	70.6	71.3	83.3

(38) 短期記憶

全体として短期記憶は、初回は「できる」が 12,385 名 (76.7%)、できないが 3,771 名 (23.3%) であった。2 回目は「できる」が 12,096 名 (74.9%)、「できない」が 4,060 名 (25.1%) であった。3 回目は「できる」が 11,551 名 (71.5%)、「できない」が 4,605 名 (28.5%) であった。4 回目は「できる」が 10,872 名 (67.3%)、「できない」が 5,284 名 (32.7%) であった。

これらの結果から、短期記憶ができない要介護高齢者の割合は、初回 23.3%、2 回目 25.1%、3 回目 28.5%、4 回目 32.7%と増加していた。

要介護度別には、非該当から要介護 2 までは、短期記憶ができる高齢者の割合は、初回から 4 回目までで、漸次、減少していた。しかし、要介護 3 から 5 までは、初回から 2 回目に短期記憶ができる割合が増加していた。2 回目から 3 回目においては、要介護 5 のみが、さらに増加していた。3 回目から 4 回目には、すべての要介護度において、短期記憶ができる割合は減少していた。

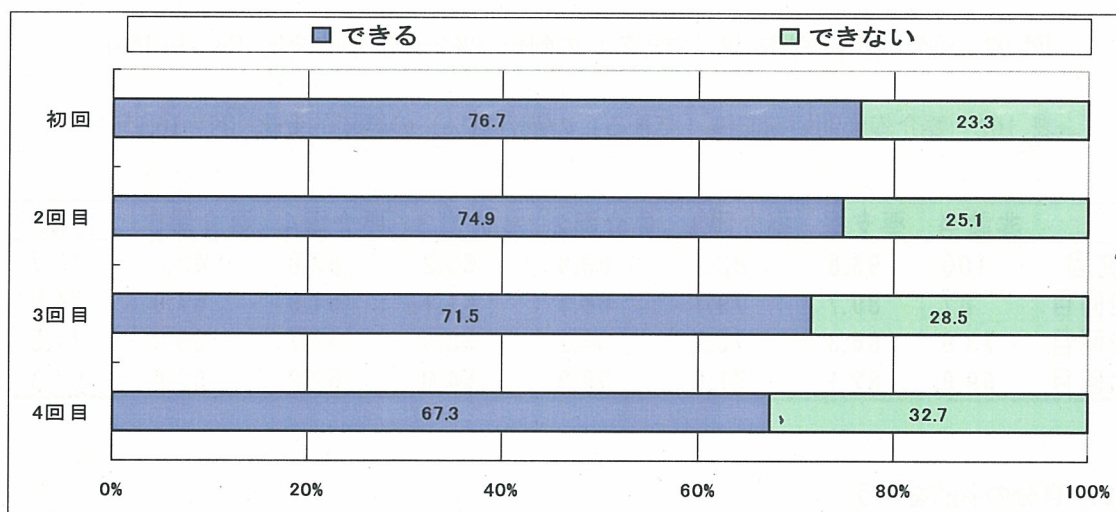


図 96 短期記憶 (N=16,156)

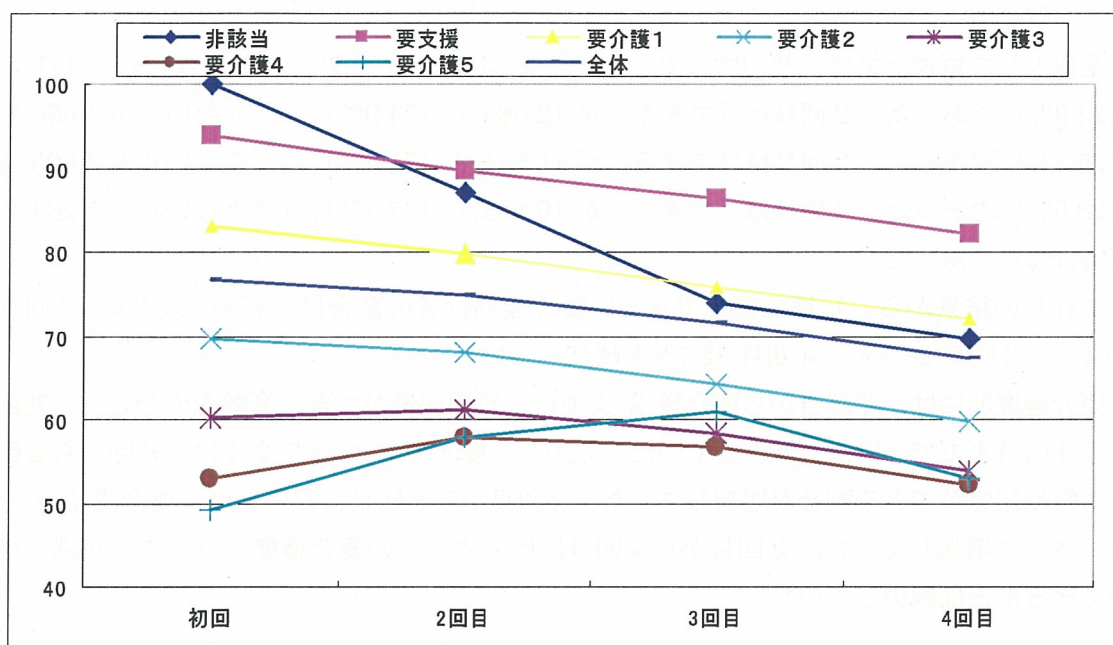


図 97 要介護度別短期記憶「できる」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

表 102 要介護度別短期記憶「できる」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	100	93.8	83.1	69.6	60.2	52.8	49.3	76.7
2回目	87	89.7	79.7	68.1	61.1	57.9	57.9	74.9
3回目	73.9	86.3	75.7	64.2	58.4	56.7	60.9	71.5
4回目	69.6	82.1	71.9	59.8	54.0	52.3	52.8	67.3

(39) 自分の名前をいう

全体としては、自分の名前をいうことが、初回は、「できる」が 15,920 名 (98.5%)、「できない」が 236 名 (1.5%) であった。2 回目は、「できる」が 15,915 名 (98.5%)、「できない」が 241 名 (1.5%) であった。3 回目は、「できる」が 15,821 名 (97.9%)、「できない」が 335 名 (2.1%) であった。4 回目は、「できる」が 15,576 名 (96.4%)、「できない」が 580 名 (3.6%) であった。

これらの結果、自分の名前をいうことが「できる」高齢者は、初回、2 回は、98.5%、3 回目 97.9%、4 回目 96.4% と示され、「できない」要介護高齢者の割合は、2 回目から 3 回目、3 回目から 4 回目にかけて増加していた。

要介護度別には、非該当は 2 回目の 95.7% を除いてすべて 100%、自分の名前をいえる人々の集団であった。要支援から、要介護 3 までのほとんどが自分の名前をいうことができたが、初回から 4 回目までに、自分の名前をいえる人は、回数が増加するにしたがって

減少していた。要介護4と5は、初回から2回目に、それぞれ94.2%から95.0%へ、86.0%から92.2%へと自分の名前をいえる人が増加していたが、3回目、4回目は減少していた。

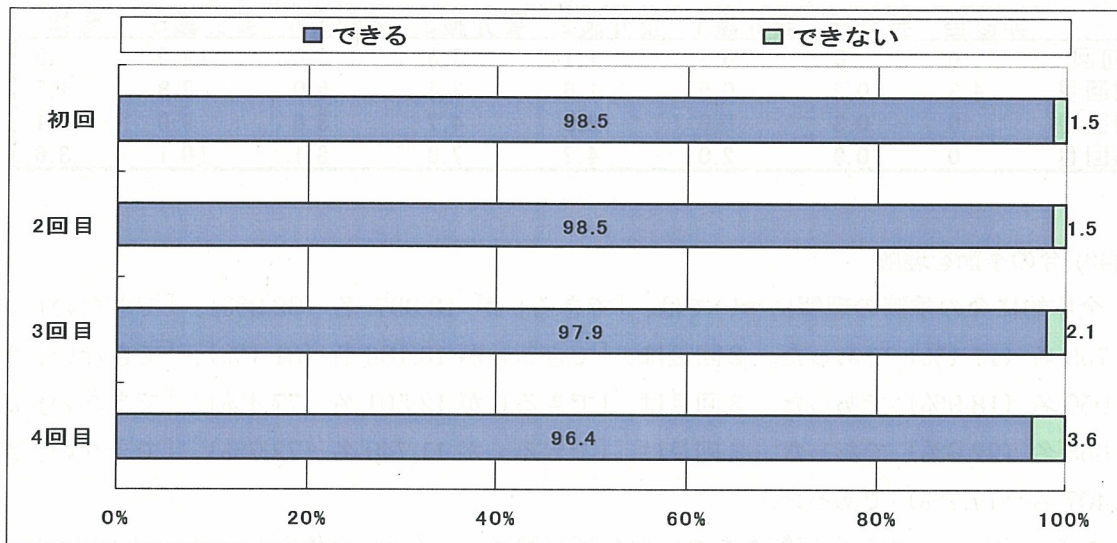


図 98 自分の名前をいう (N=16,156)

